

## 講義概要

テーマ： エコカー&グローバル戦略と水素社会について

講師： 一般社団法人ディレクトフォース 参与 山崎雅史 氏

纏め スギムラ化学工業(株) 堀田

生活には欠くことのできない自動車に関して、これまでの自動車産業の歴史、及び今後の自動車の在り方について、グローバル戦略、エコカー戦略、水素社会をキーワードとしてご講演頂いた。

### グローバル戦略：

日系メーカーの自動車生産は1985年頃から海外生産にシフトして2015年は海外生産比率が66%となった。

国内生産、海外生産へのアプローチは、各自動車メーカーの理念、こだわり度合いによって大きく異なっている。

主要国の自動車生産台数の推移では、中国が驚異的な伸びを示し、インドとメキシコでは持続的な生産台数の増加が見られる。対してブラジルとロシアでは内需低迷で失速状態が見られる。

中国市場では、内陸部への拡販と大気汚染の軽減に躍起となっている中国政府が懸命に進める電動化を巡り激しい競争が繰りひろげられている。一方タイ、インド、メキシコ等では成長市場をにらんだ戦略的輸出基地としてのクルマの開発や生産の強化が間断なく進められている。

### エコカー戦略：

時間的猶予のない地球温暖化対応が、世界各地において環境規制強化のスピードを速めており、自動車のパワトレ電動化の動きを加速しつつある。1997年のトヨタ「プリウス」で始まった量産ハイブリッド車の流れは、今では世界全体の流れとなり、ハイブリッド車と電気自動車のいいとこ取りをしたプラグインハイブリッドとして進化し、世界の主要メーカーのラインアップに並びつつある。

電気自動車は、環境規制の強化を追い風に、近年、普及の輪が広がり始めている。今後は、既存の自動車生産方式に対する新たな挑戦が起こることも予想される。

水素をエネルギー源とする燃料電池車は、まだ本格普及には程遠い状態にある。

電動化の流れの中で、内燃機関はハイブリッド車の基幹システム要素として今後数十年は残ると予想され、まだまだ重要な役割を果たすことには間違いない。

### 水素社会：

水素をエネルギー源とする燃料電池車は、約20年前から「究極のエコカー」と言われ続けていたが車両価格、水素価格の低減や、水素充填インフラ不整備等が課題となっている。

- 以上 -